

中央検査部での導入事例

川崎医科大学附属病院

中央検査部の大型分析装置との相関が一番よかったため、POCT対応分析装置を選びました。

- 使用機器：小型電極式グルコース分析装置 アントセンスⅢ
- 測定項目：グルコース
- 検査件数：150件／日

Q1 来院患者さんに対し血糖検査依頼の多い診療科はどの科でしょうか？

A1 POCT対応の血糖検査依頼は1日平均150検体あり、その内訳は糖尿病内科75検体/日、消化器内科20検体/日、リウマチ・膠原病科16検体/日、病棟血糖検体数20検体/日などです。その他に中央検査部に依頼される生化学検査に含まれる血糖検査が、外来270検体/日、入院150検体/日あります。

Q2 血糖検査の緊急対応は多いのでしょうか。

A2 緊急対応検査の依頼がほぼ90%を占めます。
今では診察前の血糖検査は当たり前となっています。

Q3 POCT対応グルコース分析装置を選択された経緯をお教えてください。

A3 開院当時より各病棟には小規模な検査室がありましたが、1998年に今の内科部長で糖尿病専門医でもある加来教授が赴任され、当時病棟で使用されていたSMBG機器では信頼性が乏しく駄目ではないかとの問題提起がありました。そこで、各種のPOCT対応分析装置の比較検討を行い、精度・操作性が良好であった以前の機器を導入した経緯があります。精度の高いデータが得られるので日常診療に非常に役立っています。

Q4 数あるPOCT対応グルコース分析装置の中から、現在使用している機器を選ばれたポイントを教えてください。

A4 各社機器の相関、ヘマトクリット、酸素分圧等の影響を比較検討し、データを診療側に提出しました。また、検査部が管轄する機器ではありますが、看護師が使う機器ですので操作性や機器を介した交差感染問題にも配慮し、メーカーの迅速対応、保守点検等に対する検査部の意向と現場看護師の意向が合致しました。特に、血糖測定については、**緊急性があり、当時使用していたSMBG機器ではデータに問題があり、中央検査部の大型分析装置との相関が一番よかった機器に決めました。**



左から 中央検査部 技師長
黒川 幸徳先生
中央検査部 主任技師
高松 邦樹先生

【POCT】 Point of Care Testingの略で、ベッドサイド検査のことです。中央検査部でなく患者さんのすぐそばで、医療従事者が診断や治療のために行う検査のことです。

【SMBG】 Self Monitoring of Blood Glucoseの略で、血糖自己測定のことです。糖尿病の自己管理のために、患者さん自身で血糖自己測定器を用いて測定を行うことです。

データの安定性がよかったです。
また、医療事故も皆無です。



Q5 現在使用している機器で、特にお役に立てた症例やエピソード等がありますか？
外来、病棟等からの看護師さんからの声でも結構です。

A5 **データの安定性、至急の対応がよかったです。**また、長く使用してきて医療事故も皆無です。特に、当院の歴代の現場担当者がよく対応してくださいました。今後の対応も、今までのように継続性をもって対応していただければ現場、検査部としてもなんの問題ありません。先程もお話しましたが、特に緊急で大変役立っています。

Q6 導入決定に際し、病棟の看護師さんへの説明はどのようにされましたか？

A6 3年前から、各部署を回って説明を実施しました。特に、今回は機器の寿命もあり、看護単位責任者会議で説明会を実施し、新しい機器の導入についてはアンケートも取りました。SMBG機器と、今までのような据え置き型の機器と両方をデモンストレーションし、今まで通りの据え置き型がやはり慣れており、よかったとの結果で、今の機器に決定しました。**また、SMBG機器は感染問題もあり、今まで使用していた機器が過去に医療事故も無く、安全・安心であることが選定した大きな理由です。**

Q7 今後のPOCT対応グルコース分析装置に望むこと、また、中央検査部として開発希望される機器等がありましたらお聞かせ願います。

A7 小さいお子さんが採血に来て、オーダーを見ると血糖に〇がついていて、1型糖尿病のお子さんと知って、やはり非侵襲の機器の発売が急務ではないかと日々採血室で感じています。アントセンスロゼは測定データを電子カルテに送信できる機能がありますが、操作性からみるとまだ時期尚早と判断しています。
中央検査部の機器としては、尿検査における高性能の分析器を望みます。まだまだ技師の経験に基づくところが大きく、なんとか機器で統一したデータが出せる大型の機器の上市を希望します。また、血液を採らず、唾液等で測定可能な血糖測定器を、是非、検討して頂きたいです。患者さんには極力負担をかけない低侵襲な機器の開発を期待しています。

Q8 検査室で勤務されている中でのモットーは何ですか？

A8 患者さんの為に日々正確なデータを提供するのが大事と思っています。



施設インフォメーション

施設名：川崎医科大学附属病院
住所：岡山県倉敷市松島577
診療科目：総合診療科、臨床腫瘍科、救急科、循環器内科、呼吸器内科、心臓血管外科、呼吸器外科、腎臓内科、泌尿器科、血液内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、神経内科、脳卒中科、脳神経外科、心療科、小児科、新生児科、小児外科、産婦人科、乳腺甲状腺外科、皮膚科、リウマチ・膠原病科、整形外科、形成外科・美容外科、リハビリテーション科、食道・胃腸内科、肝・胆・膵内科、消化器外科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科・口腔外科、麻酔・集中治療科、放射線科（画像診断、治療、核医学診療）、健康診断センター
病床数：1,182床（一般1,154床、精神28床）



小型電極式グルコース分析装置
アントセンスⅢ
製造販売届出番号：26B3X00002120002

- 検査部の測定法として信頼のある酵素電極法（GOD・過酸化水素電極法）
- カートリッジに検体を点着する測定方法

株式会社 堀場製作所

医用営業統括室 TEL(075)313-5736(直) FAX(075)313-8177 E-mail:me_info@horiba.co.jp

●北海道(011)207-1800(代) ●東北[仙台](022)308-7890(代) ●東京(03)6206-4719(直) ●名古屋(052)936-5781(代) ●大阪(06)6390-8013(直) ●四国(087)867-4800(代) ●広島(082)288-4433(代) ●九州[博多](092)292-3593(代)